

活動レポート

2012年6月号

RILEM ニュース

材料施工委員会 RILEM 小委員会

RILEM 小委員会では、構造材料分野の国際的な情報を会員諸氏に発信する目的で RILEM (英語表記で International Union of Laboratories and Experts in Construction Materials, Systems and Structures) の紹介を継続的に行っています。今回は、RILEM において下記の新しい研究委員会が立ち上げられました。参加の意思などご興味のある方は建築学会事務局 (浜田政治 hamada@aij.or.jp) までご連絡ください。なお、下記情報の詳細は以下のアドレスにアクセスすることにより得られます。

RILEM ホームページ : <http://www.rilem.net/>

TC DTA Durability testing of alkali-activated materials, Cluster D

Chair : Dr. John Provis, Australia

Secretary : Dr. Frank Winnefeld, Switzerland

本研究委員会は、高炉スラグ微粉末、フライアッシュやジオポリマーなどをアルカリ刺激材によって硬化させ、それをセメント代替とする材料の耐久性試験方法に関する委員会である。セメント系材料やコンクリートに対する耐久性に関する試験方法はこれまでも規格化されたものはあるが、それが上記のような新しい材料に必ずしもマッチングするとは限らない。本委員会では特に以下の劣化現象に対する試験方法について検討する。

- 塩化物イオンの浸透
- 中性化
- 硫酸塩劣化
- 凍結融解抵抗性と融雪剤の複合劣化
- アルカリシリカ反応

TC ISC Non destructive in situ strength assessment of concrete, Cluster A

Chair : Prof. Denys Breyse, France

Secretary : Prof. Jean-Paul Balayssac, France

コンクリートの強度を非破壊で推定するための反発度法などはあまりにも一般的であるが、その他の方法もさまざまに開発されている。本委員会はこれらの手法を集積し、構造物や目的に応じた手法の選定やデータ校正方法に関する、より実用的な指針を作成することを目的とする。

TC MMB Methods of measuring moisture in building materials and structures, Cluster B

Chairman : Prof. Lars-Olof Nilsson, Sweden

Secretary : Mr. Kurt Kielsgaard Hansen, Denmark

材料の水分は、その熱伝導率やクリープ・収縮挙動などに大きな影響を及ぼす。このため材料中の水分状態を把握することは非常に重要であるが、この方法に確定されたものはなく、国や研究者によってさまざまな手法が用いられている。本委員会では各種含水率測定方法に関する情報を集積し、共通試験などを通して建築材料中の含水率の測定方法に関するガイドラインの作成を目指す。